

8

占領期の「公衆衛生列車展覧会」に関する考察

—“Information Train”案について—

田中 誠二¹⁾、杉田 聡²⁾、丸井 英二³⁾¹⁾新潟大学人文社会・教育科学系、²⁾大分大学医学部、³⁾人間総合科学大学

【研究の背景】本報告は、現在進めている占領期日本の衛生教育に関する研究のうち、「公衆衛生列車展覧会」についての調査の続報である。公衆衛生列車（Public Health Train）とは、衛生知識の普及・啓蒙を目的として、車内に公衆衛生・福祉に関する模型や写真、ポスター、図などを陳列し、全国の主要都市を巡回展示した列車である（厚生省主催）。これまで、GHQ/SCAP文書内の記述をもとに、【1】関東地方（1947年11月1日～1948年1月16日）、【2】九州地方（1948年2月8日～3月25日）、【3】近畿・中国地方（4月24日～6月25日）、【4】北海道（7月24日～8月20日）における運行経路を明らかにし、報告した。停車（展示）駅では観覧を待つ子どもたちが長い列を作るなど、各地で大きな賑わいとなった。厚生省は、その後、【5】東北地方、【6】中部・北陸地方、【7】中国（山陽地方）・四国地方を約5か月間で巡回する計画を立てていたが実施には至らなかった。乗務員として巡回展示に係わった宮坂忠夫（当時、厚生省公衆衛生局保健所課）の後の記述から、その理由が「経費不足」にあった（保健の科学、42（7）、508-513、2000年）ことが明らかになっている（第80回日本民族衛生学会総会（弘前）、2015年にて報告）。

【目的】本報告では、北海道における巡回展示後、GHQ/SCAP内で提案された「公衆衛生列車」の発展・継続案（“Information Train”）についての議論の概要を明らかにする。

【方法】国立国会図書館憲政資料室に所蔵されているGHQ/SCAP/PHW文書のなかから、“Public Health Train”に関する文書を探索・収集した。得られた資料のうち、マイクロフィッシュ [PHW 1333-1336] に収録されている文書を中心に検討した。

【結果と考察】1948年9月29日付のPHW文書（MEMORANDUM FOR RECORD）には、民間情報教育局（CIE）の教育課成人教育係（Adult Education Branch）のP. J. BurnetteがPHWを訪れた際のやりとりが記録されている。訪問の目的は、CIEが企画中の“教材の移動列車展”の参考とするために「公衆衛生列車展覧会」についての情報を収集することであった（彼は、実際に公衆衛生列車展覧会を観ており、強い印象を受けたとの記述がある）。情報が共有されるなかで、この2つの展覧会を結びつけより大きな教育プロジェクトとすること、また、厚生省と文部省に密接な協力関係を築かせることについて提案がなされ、そうすることで予算獲得における大蔵省への圧力ともなり得ることが議論された。この共同プロジェクトについてはCIE局長D. R. Nugentも賛成し、もしPHWの同意が得られるならば農林省も含めたプロジェクトとしてはどうか、との提案もなされていることが記された。この文書から2日後の10月1日、CIEオフィスにて会合が開かれ、“Information Train”という名称が付されたこの共同プロジェクト案についてさまざまな意見が交わされた（MEMORANDUM FOR RECORD, 2 October 1948）。出席者は計10名で、PHW予防医学課C. M. Wheeler以外すべてCIEのスタッフである。日本側からの出席はなかった。大蔵省への要求のために、PHW、CIEの両局長より公式のサポートを得る必要性や今後の継続的な議論が提案された。事実上、「公衆衛生列車展覧会」存続の唯一の可能性とも言えた“Information Train”案であったが、その後の具体的な議論の記録は現時点で見つかっていない。1949年1月15日の文書には「公衆衛生列車に関する最終報告」として使用車両が運輸省に返却されたことなどが記されている。今後は、CIE文書内における関係文書の探索・収集を含め、検討を深める予定である。

本研究はJSPS科研費25460627の助成を受けたものである。